熊本日日新聞 読者の広場 若者コーナー

令和3年6月9日掲載

3年1組 植里 卓海

「得たもの多かった体育大会」

「負けてしまいましたが、楽しかったので良かったと思います」。これが、僕が応援団長として赤団の人たちに言った最後の一言です。

さかのぼること3週間ほど前、僕は体育大会の応援団長の大役を引き受けることになりました。「90人あまりをまとめて優勝をする」という目標を持ち、応援団長としての生活が始まりました。

最初は、他の応援団員と応援演舞をがんばればよいのだろうと思い、不安や焦りはありませんでした。しかし、練習が進むにつれ、赤団全体を率いていく責任感や難しさを感じるようになりました。

特に応援練習では、段取り通りに練習を進めることができず、先生方の指導を受けてばかりいました。いつも支えてくれた副団長の2人には感謝でいっぱいです。

大会当日、赤団全員で協力して、気合いを入れて挑みました。競技ではどれだけ差をつけられても、最後までふんばって、戦い抜きました。応援演舞では、気持ちも動きも揃っており、後ろから声を出してもらい、力がわいてくるのを感じました。

大変なことがとても多かったのですが、その中で得られるものがたくさんありました。今回の体育大会は本当に良いものになったと思います。